厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

三重県における成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実化に資する研究

研究分担者：丸山 貴也　（国立病院機構三重病院 呼吸器内科）

研究要旨　人口ベースで成人の侵襲性細菌感染症を評価する体制を構築することで罹患率が算定でき、その特徴を解析することで、より適切な治療、予防を確立することができる。

A. 研究目的

1. 三重県の医療機関で発症した成人の侵襲性細菌感染症を評価する体制を構築する。
2. IPD、IHD、STSS、IMDと診断された症例の患者情報と菌株を収集し、感染症研究所で莢膜型、遺伝子型、薬剤感受性などを精査する。

B. 研究方法

1. 三重県の基幹定点医療機関9施設＋1施設については保健環境研究所で菌株、患者情報を一括して収集し、国立感染症研究所へ送付する。
2. それ以外の医療機関については、三重病院で菌株を収集し、国立感染症研究所へ送付する。

（倫理面への配慮）

本研究では、必要な検体は研究参加前に採取、保存されている菌株を用いるため、予想される不利益は少ないものと考えられる。

C. 研究結果

三重県在住者では、令和2年度はIPD13例、IHD1例、STSS6例が集積された。

今年度のIPDの特徴は平均年齢73.6歳で、莢膜型は3型2例、34、19A、6C、11A/E、15A、35B、38、23B、34、15C、10A、33、35Bがそれぞれ1例ずつ検出された。肺炎球菌ワクチンのカバー率はPCV13 vs PPSV23=25% vs 64.3%であった（**図1**）。

D. 考察

令和2年度の症例数はIPD28例、IHD7例、STSS9例と比較的に少なく、COVID-19による三重県全体での感染対策が影響していることが推察される。

E. 結論

令和2年度は、最も症例数が少なく、COVID-19

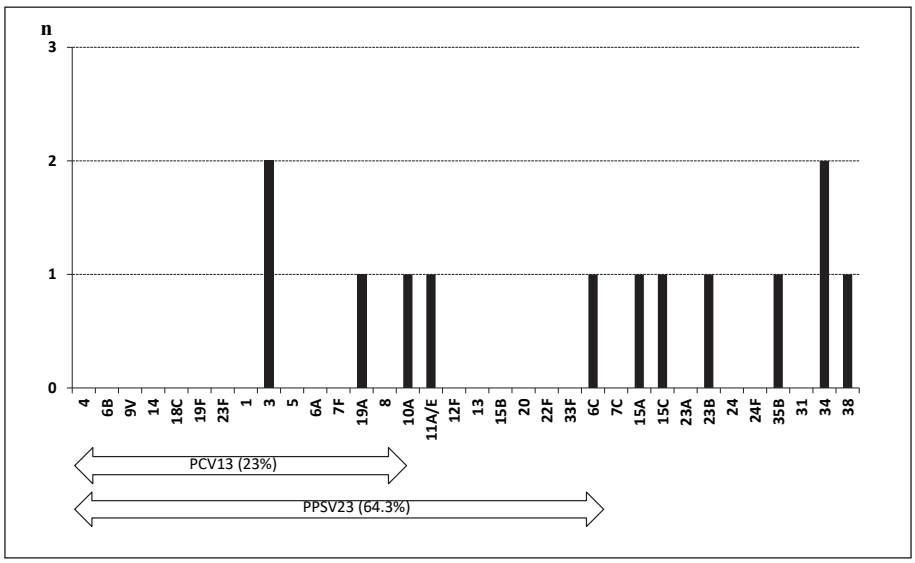

図1. 三重県の成人IPDの莢膜型と肺炎球菌ワクチンのカバー率（n=13）

の影響と推察される。今後も引き続き行政部門と連携をとり、菌株と臨床情報の収集につとめる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1）丸山貴也，シンポジウム17：ハイインパクト・リサーチ・シンポジウム：肺炎の予防と治療～地域医療からのエビデンス創出～，第94回日本感染症学会総会・学術講演会

2）丸山貴也，シンポジウム「インフルエンザ診療Up to date」、インフルエンザ・肺炎球菌のワクチン、第60回日本呼吸器学会学術講演会

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし